

城西大学「J-DAG 訓練」参加報告案

日 時：令和 4 年 7 月 14 日 13:00～15:00

場 所：城西大学キャンパス

テーマ：発災直後の行動ゲーム（大学の授業として実施）

大学側：飯塚智規先生（現代政策学部）、補助員、学生

だるま：R 片山、樋口、高松、田中喜、吉開、田中晃（記録）

見学者；埼玉県、自治会、地域の企業等約 20 名

資 料：会場地図、J-DAG とは、指示書一覧表、対応記録票、住民リスト、
資機材配備表、資機材カード（見本）、自治会地図、自治会地図（被害
情報記入）

1. 訓練の概要

- (1) 連合本部と 2 避難所、4 班の地区を、3 教室（本部、A&B 班、C&D 班）に分かれて、トランシーバーを利用して訓練を行った。
- (2) 各班には指示書が届けられ、主に被害状況の把握と対応、避難者名簿の作成、安否確認の結果をまとめた。
- (3) 片山さんからは、トランシーバーの使い方の説明を行った。
- (4) 防災塾・だるま参加者は、生徒からの問い合わせがなく、地元参加者からの質問への対応、ゲームの状況確認が中心であった。
- (5) 各班はゲーム終了後、対応記録表をまとめ、翌週に反省会（発表）を行う予定。



2. 活動状況

(1)各グループ（A B C D 本部）

- ・リーダー、書記、トランシーバーの取り扱いを分担し、課題に取り組んだ。指示書の配布者 3 名が配置されていた。
- ・教室内の机を自由に並べ替え、各班（自治会）の本部に見立ててゲームに取り組んでいた。
- ・地震発生時にアラームを出したが、学生はすぐに反応しなかった。最後は机の下に逃げていた。
（落下物への安全対応等評価したらどうか。）
- ・C 班と D 班は同一教室内で相談し合っていた。

(2)特徴的な事項例

- ・トランシーバーの音量を大きくして、皆が聞きや



すくしていた。(全体)

- ・リーダーが動き回り指示を出していた班、対応を数人で検討していた班、色々であった。
- ・本部から水槽を運搬するのに、火事等通行できない状況を基に、運搬ルートを全員で検討していた。
- ・マップ(自治会地図)に状況を記入し検討していたグループもあった。

(3) 総合的な感想

- ・(授業で時間をかけたので) 落ち着いて、全員で取り組んでいた。
- 学生の皆さんは若いだけに呑み込みが早く、スムーズにゲームが進行していたようにみうけられた。
- ・必要に応じて他のグループ(自治会や本部)に支援を求めている。
 - ・分らなかつたり、聞き取れない場合には、そのままにせず、しっかり確認し合っていた。
 - ・問い合わせ等をトランシーバーで行った。時々自分の班を言わないで切っていたが、なぜか、暗黙の了解みたいな場面も見られた?
 - ・本部の対応は、見学者にも、何をしようとしているのか役割分担が分かりやすかった。
 - ・今回は「各班にリーダー的な人選をした」と飯塚先生からお聞きした。

。

3. 地元参加者からの感想等

- ・民生委員が安否確認するのか。
- ・「火災対応」や「避難行動」「生き埋めは善処しなさい」の判断と行動はどう行うのか。(回答: いる人で判断する)
- ・市民の状況調査には、個人情報が入力されているが、調べられるか。(回答: 教えていただける人を積み上げ、毎年追加していく)
- ・参加した県職員の感想は、難しかったが参考になった、との回答。(飯塚先生: 坂戸市長からは J-DAG に否定的であったようです。)
- ・見学者同士で意見交換が行われていた。
- ・5 台のトランシーバーを見学者に貸し出した。2 台しか使用せず。

4. 反省事項

- ・東武線的人身事故で、予定より 1 時間遅れで到着した。6 人中 3 人は復旧後定常ルートで、3 人は JR 利用して迂回した。
- ・トランシーバ持参を依頼されており、これが無ければゲームが成り立たない。今後は、代替案や余裕を持って行く必要と感じた。

以上